



小学校国語科教科書における女性語について(二〇一三年度卒業論文要旨集)

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2014-11-11 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 桑村, 優里 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.32150/00007457

小学校国語科教科書における女性語について

日本語学研究室 ○四四〇 桑村 優里

本研究は、小学校国語科教科書（平成二十三年度使用）を対象とし、終助詞に着目して女性の言葉遣いを調査した。国語科教科書の調査結果と先行研究のテレビドラマのシナリオを対象とした調査結果を比べ、国語科教科書で女性が使用する終助詞の特徴を分析し、指導上の留意点を考察した。教科書全体の分析に加え、低・中・高学年ごとの分析、発話のキャラクタごとの分析を行った。

使用されている終助詞の種類や多用されている終助詞については、国語科教科書とシナリオで違いはほとんどなかった。国語科教科書もシナリオも「よ」「ね」「の」の使用が多かった。これは、教科書全体、低・中・高学年ごと、発話キャラクタごとで見ても同様であった。しかし、終助詞「かな」の使用はシナリオにはあまり見られなかった。発話キャラクタごとに分析すると、「かな」は国語科教科書に学習の手引き等で登場する女兒が多く使用する終助詞だと分かった。女兒はどの学年にも多く登場していた。その他の発話キャラクタでは、おばあさんには「さ」の使用が多く、お母さんの使用する「よ」には女性的な「よ」と男女共通して使う「よ」と命令形につく「よ」があった。

性別による言葉遣いを教える時は子どもが身近でないと感じて心情的に寄り添いにくくならないようにしたり、偏ったステレオタイプの形成をしないようにしたりする注意が必要である。